

・計算量について

まずはじめに、アルゴリズム(問題の解決方法)の性能を計るのに、どのような条件を基準にテストを行えばよいか。考えられる方法として、そのアルゴリズムを実現するプログラムを書いて、それをコンピュータで実行させてみる方法がある。しかしこの方法には、以下の欠点が生じる。

1つ目として、どの CPU を使用するかという事だ。CPU にはそれぞれの構造によって、得意、不得意がある。また、ベクトルプロセッサの等のように特定の操作が高速な CPU もある。よって、1つの CPU のみを使ってアルゴリズムの性能を計ることは不適切であると言える。

2つ目として、プログラムを書く際のソースコードの技量に左右されてしまう事だ。同じアルゴリズムでも、ソースコードに無駄があれば、適切な測定はできないと言える。こういったことから、実際にプログラムを実際に動かして実行時間を測定する、従来のベンチマークテストのような方法は、アルゴリズムの評価には使用できないという事がわかる。

こういった理由から、アルゴリズムの性能を表現するには、実在のマシを使わないで、計算量という抽象的な尺度を用いる。どのプログラムが最も良いかを評価する基準は何か、またどれくらい良いのかという目安を数学的に与えるのが計算量である。

同じ結果が得られるのなら、時間計算量や領域計算量が小さいアルゴリズムが良いと言える。ここで、時間計算量とは、プログラムの実行開始から終了までに要した時間を評価するものと定義した。さらに、領域計算量は、プログラムの実行開始から終了までに占領する記憶領域・ファイル領域のこととした。時間と領域を考えるうえで、時間計算量と領域計算量の兼ね合いを考えなければならない。

計算量を表すには、前に説明したように、CPU の種類、コンパイラの性能、プログラミング技術などに影響されない表現を用いなければならない。しかし、アルゴリズムの実行性能はこれらに大きく左右されてしまう。したがって、「このアルゴリズムの実行時間は、入力の大きさ n の 2 乗に比例する」というような表現しかできない。この中で、比例定数は使用する CPU やコンパイラの性能、プログラマの腕によることになる。

実行時間が入力の大きさ n の 2 乗に比例するアルゴリズムを、「実行時間が $O(n^2)$ のアルゴリズム」と呼ぶ。 $O(n^2)$ は、「 n^2 のオーダー」または「オーダー n^2 」と呼ばれる。また、実行時間が $f(n)$ のアルゴリズムを「オーダー $f(n)$ のアルゴリズム」と呼ぶ。

O 記法はアルゴリズムの効率を解析するのに、非常に有用である。たとえば、あるサイズ n の問題を解くのに要する時間または手順数が $T(n)=3n^2+9n+8$ と決まったとすると、 n を次第に大きくしていくと n^2 の項ばかりが $T(n)$ に影響するようになり、他の項をほとんど無視できるようになる。さらに、 n^3 や 2^n といったほかのオーダーの式と比較する分には係数も無関係になる。

プログラムを書く上で最も重要なことといえば、何と言っても実行時間である。であるの

シラバスの作成方法

教員 各位

教務委員会

平成 25 年度のシラバスについて

平成 25 年度のシラバスにつきまして、下記のとおり連絡いたします。 なお、シラバスへの入力時期及び入力方法については、追ってご連絡いたします。

記

(記入方法の説明)

【学習・教育目標】(資料の①)

次の分類をもとに科目の目標を設定する。該当する目標は 3 つまでとし、主目標、副目標の順に記入する。 なお、教員は修正ができないため、修正・訂正の場合は教務係に連絡をする。

【関連科目】(資料の②)

当該科目の「基礎となる科目(履修しておくべき科目)」と「発展する科目(次につながる科目)」をそれぞれ 1 科目ずつ挙げ、その順番に記入する。 当然、本科の関連科目は 1 年生では「発展する科目」だけ、5 年生では「基礎となる科目」となる。 ただし、専攻科 1 年生では「基礎となる科目」に本科 5 年生の科目を入れる。

【達成目標】(資料の③)

その単元によって学生が身に付ける能力(～ができる)を明示する。試験によって試される内容であり、具体的なほどよい。

【参考書】(資料の④)

記入した書籍は「推薦図書」として図書館に 1 冊以上配備すること。

【評価方法】(資料の⑤)

「学習態度、出席状況」の評価割合は 20% 程度までにする。
「学習態度」の内容が質問や小テストならばその旨を明らかにし、 証拠資料を保管しておくこと。

【オフィスアワー】(資料の⑥)

学生の質問に答える時間として確保しておく時間帯である。特に制限はないが、学生と教員にとって妥当な時間帯を設定する。なお、非常勤については授業終了後や休み時間が考えられる。 これらが不都合なときは、質問を取り次ぐ常勤の担当教員を定めておく。

【シラバスの変更について】

シラバスの内容に変更がある場合には速やかに教務係に連絡の上、データを修正する。原則として評価方法と基準については変更を認めない。 ただし、授業開始前であれば認める。 その場合にはシラバスデータを修正後に、教務係に連絡をし、学生に変更後のシラバスを配布することとする。

教科目名: ()
 担当教員:
 学年・学科/専攻名: 年 工学科
 単位数・授業時間: 選択 1 単位 通年 週 (前期) (後期) 時間 (合計 0 時間)
 単位種別: 履修単位 ① 基岡高専学習・教育目標: () () () ()

授業の概要	
② 関連科目(3科目以内):	
授業内容	③ 達成目標
前期中間 (前期中間試験)	{ { {
前期末 (前期末試験)	{ { {
後期中間 (後期中間試験)	{ { {
後期末 (学年末試験)	{ { { {
合計 0 週	
教科書	書名: 著者: 発行所:
④ 参考書	書名: 著者: 発行所:
⑤ 評価方法と基準	
⑥ オフィスアワー	

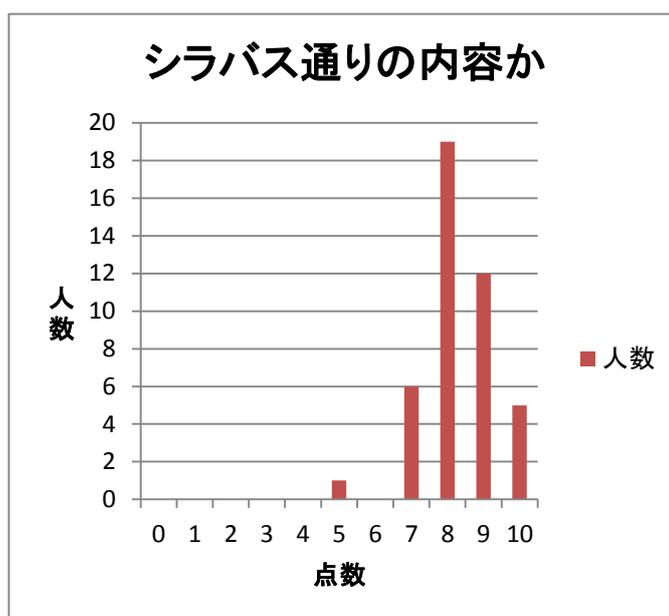
(出典: 学生課資料)

教員教育評価票（抜粋）
（シラバスの活用について）

アンケート項目

平成24年度教員教育評価票							
学科名:				教員名:			
自己評価年月日:		平成 25年 月 日					
評価項目と採点基準(下記基準を目安に10点満点で自己評価欄に記入)						自己評価	要改善
1. 全体的にシラバス通りの内容で授業を実施したか。							
不十分=0点 大体十分=5点 完全に実施=10点							
2. 自学自習の指導を行ったか。							
不十分=0点 大体十分=5点 完全に実施=10点							
3. 授業の教材, 準備, 進め方等について反省点があるか。							
かなりある=0点 若干ある=5点 ほとんどない=10点							
4. オフィスアワーやその他の時間に学生の来室があったか。							
全く来室がない=0点 毎月来室があった=5点 毎週来室があった=10点							
5. 試験やレポート等の内容のレベルは妥当だったか。							
出題範囲・内容・レベルに問題がある=0点 シラバスに即しておりほぼ妥当=5点 シラバスに即しており十分妥当=10点							

アンケート結果



授業改善アンケート（抜粋）
（シラバスの活用について）

アンケート項目

授業改善アンケート調査(学生用)

FDネットワーク「つばさ」

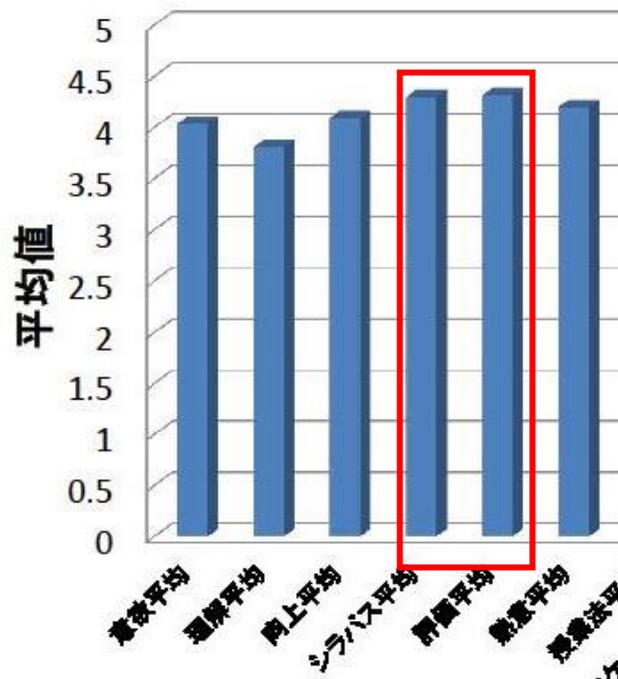
この調査は、授業改善のために、受講したこの授業についての意見を伺うものです。
回答内容は成績評価とはまったく関係がありませんので正直にお答えください。

記入上の注意

- 1 この用紙は、表面（選択回答欄）と裏面（自由記述欄）に分かれています。
- 2 質問順に従って、回答してください。
- 3 記入は、HまたはHBの鉛筆を使用してください。
- 4 訂正は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないでください。
- 5 所定欄以外にはマークしたり、記入したりしないでください。
- 6 汚したり、折り曲げたりしないでください。

質問4	内容を理解できましたか。	5 ○	4 ○	3 ○	2 ○	1 ○
質問5	考え方、能力、知識、技術などの向上に得るところがありましたか。	5 ○	4 ○	3 ○	2 ○	1 ○
質問6	シラバスに授業の目標や授業計画は具体的に示されていましたか。	5 ○	4 ○	3 ○	2 ○	1 ○
質問7	シラバスに成績評価基準と評価方法は具体的に示されていましたか。	5 ○	4 ○	3 ○	2 ○	1 ○
質問8	教員に熱意は感じられましたか。	5 ○	4 ○	3 ○	2 ○	1 ○

アンケート結果



（出典：FD委員会資料）

進捗度チェックシート

進捗度チェックシート(平成24年度)
 科目名:材料化学

学年: 4 年 学科: class4
 講義時間: 30 週 担当教員: 佐藤 司

授業内容	進捗 予定 (週)	実施状況	備考
1. 材料化学とは 1.1 材料化学の要素 1.2 材料化学と技術との関連 2. 完全固体の構造 2.1 原子中の電子構造 2.2 電子構造と化学的性質 2.3 原子間力 中間試験	(1) (1) (1) (1) (1) (2) (1)	4/16 材料化学の要素 4/23 材料化学と技術との関連 5/7 原子中の電子構造 不確定性原理 5/14 電子のエネルギー フォトン 5/21 量子数 電子配置 5/28 電子構造と化学的性質 原子間力 6/4 原子のボテンシャルのくぼみ 6/11 中間試験	予定通りの進捗であった
2.3 原子間力の続き 2.4 結晶学的記述 2.5 結晶構造解析	(2) (3) (3)	6/18 原子配列 フラベ-格子 6/25 例題2-4、2-5 7/12 ミラー指数 7/17、23 結晶構造解析 9/3 結晶構造解析の復習および関連問題	
(前期末試験)	(0)		予定通りの進捗であった
3. 高分子の合成と構造 3.1 高分子の概念 3.2 様々な合成反応 付加重合、重縮合、重付加、開環重合、付加重合 3.3 付加重合各論 ラジカル重合、イオン重合、配位アニオン重合	(2) (2) (2)	10/1 前期試験復習、高分子の概念 10/15 1.1.1, 1.1.2, 1.2.1 一部 10/22 1.2.1 付加重合 10/29 付加重合つづき 11/5 重縮合 11/12 重付加、開環重合、付加重合 11/19 重合操作手法、重合速度論 11/26 重合速度論、共重合 12/3 イオン重合 12/10 配位アニオン重合 12/17 中間試験、平均分子量の計算 1/7 テスト返却、構造と性質 1/15 固体構造 1/21 固体構造 (続き) 2/4 プラスチック、ゴム、繊維 2/18 全般的性質	食品包装、コスメチック関連、天然・半合成・合成高分子 各論 PE, セルロイド, ナフザ製造 PP, PS, PVC, PVAc, ビニロン PET, ナイロン, PBT, PC 合成と性質、用途
中間試験 3.4 平均分子量、分子量分布 3.5 高分子の構造 化学構造および固体構造の分類 4. 汎用性高分子の一般的特徴 4.1 熱的性質 4.2 加工方法およびプラスチック、ゴム、繊維 4.3 汎用高分子の全般的性質 (学年末試験)	(1) (1) (2) (2) (1) (1) (2) (0)		ほぼ予定通りの進捗であった 結合様式、シーストランダム体 ガラス転移、熱可塑性、熱硬化性 応力-ひずみ曲線 ほぼ予定通りの進捗であった
総合評価:			予定通りに進捗した

(出典: シラバスシステム)

(分析結果とその根拠理由)

学習教育目標に沿った内容が明確に記載されたシラバスが作成され、教員はシラバスに沿って授業の実施、成績評価を行っている。シラバスは関係者に配布され、活用されている。

観点5-2-③： 創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また、インターンシップの活用が図られているか。

(観点に係る状況)

各学科では、1，2年次において「創造実習」という科目をおき、「自ら調べ，自ら作り，自ら評価する」PBL型授業を導入し各学科の特徴を生かして取り組んでいる（資料5-2-③-1～2）。

また、実践的な技術者育成という目的に沿って、全学科で工場実習を行っている（資料5-1-②-1参照）。実習後には報告を行い、規定に沿って1単位を卒業累積単位数として扱っている（資料5-1-②-1参照，資料5-2-③-3～5）。受入企業数は、好況・不況によって変動するが、毎年多数の学生が履修している（資料5-2-③-6）。

創造実習

教科目名: **創造実習** (**Creating Practice**)
 担当教員: 今野健一・小野寺良二
 学年・学科/専攻名: 2 年 機械工学科
 単位数・授業時間: 必修 1 単位 後期 週 (前期) (後期 2) 時間 (合計 30 時間)
 単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: (A) (G) ()

授業の概要	
ブリッジコンテストを行う (幅 30 cm の川に橋を架ける)。材料は紙とりの。構造、強度、製作方法に関する質問は受け付けない。自ら調べ、自らつくり、自ら評価することを目的とする。	
関連科目: 基礎製図 (1年)、材料力学 I (3年)、製図・製作実習 (3年)	
授業内容 (W)	達成目標
前期 中間	
前期 末	
後期 中間	1. 課題の読解、橋の分類 (1) 2. 橋の分類と調査 (1) 3. 製作する橋の形状と部品配置図 (1) 4. 製作 (1回目) (4) 5. 強度試験と考察 (1)
後期 末	1~ 3. 目的から構造を想像できる。 情報を集め特徴付けて分類できる。 製作計画を立案できる。 4. 完成まで根気強く製作できる。
	6. 製作 (2回目) + 強度試験と考察 (3) 7. 製作 (3回目) + 強度試験と考察 (3) 8. レポート作成 (1)
	5. 結果を反省し改良点を見いだすことができる。 6. 改良を加えた製作ができる 7. 結果を分析し、報告書にまとめることができる
合計 15 週	
教科書	書名: 使用せず 著者: 発行所:
参考書	書名: 著者: 発行所:
評価方法と基準	1回目、2回目、3回目の耐荷重の最高値 (90%)、途中と最後に提出させるレポート (10%) で評価し、50点以上を合格とする。 ただし、耐荷重が基準値 (1.9kg) を超えなかった者は不合格とする。
オフィスアワー	授業日の 16:30 ~ 17:00

資料5-2-③-1 続き

教科目名: **創造実習** (**Creating Practice**)

担当教員: 穴戸 道明

学年・学科/専攻名: 2 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 後期 週 (前期) (後期 2) 時間 (合計 30 時間)

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: (G) (C) (A)

授業の概要
 自らアイデアを出し与えられた課題を解決するため、設計、加工、組立ておよび評価までを行う開発実習を行う。この学習においては、自ら問題点を見つけ解決してゆく能力を身につける。各自が作成した成果に関する発表を通して、プレゼンテーション能力を身につける。

関連科目:

		授業内容 (W)	達成目標
前期中間			
前期末			
後期中間		1. 創造実習のガイダンス (1) 2. 課題の提示と実施細目の決定 (1) 3. 概念設計と詳細設計 (2) 4. 加工・組立 (3) 5. 第1回成果のプレゼンテーションと製品評価会 (2)	1) 各自のアイデアを具体化する過程で設計図を制作し、作成案を固める。各自のアイデアを図面にまとめて、説明することが出来る。設計案は、申告して提出する。 2) 作成案にしたがい加工と組立てが出来る。 3) 技術者として重要なプレゼンテーションの訓練が出来る。
後期末		1. 第1回成果の再評価 (1) 2. 第1回成果を踏まえて同モデルの改良設計 (1) 3. 加工・組立 (2) 4. 第2回成果のプレゼンテーションと製品評価会 (2) 5. 創造実習成果のまとめとレポート作成 (1)	1) 成果の見直しと再設計が行える。 2) 改良後の製品を作ることにより、技術の改良の仕方を知ることが出来る。 3) 学習成果を文章や図で記述することが出来る。
合計 15 週			
教科書	書名: プリント (指導書)	著者:	発行所:
参考書	書名: 適宜紹介する	著者:	発行所:
評価方法と基準	後期中間でのプレゼンと製品評価を30%、後期末のプレゼンと製品評価を50%、レポート内容10%、実習態度10%で達成度を評価する。総合評価50点以上を合格とする。		
オフィスアワー	講義実施日の16:00~17:00		

資料 5 - 2 - ③ - 1 続き

教科科目名: **創造実習** (Creating Practice)

担当教員: 清野 恵一

学年・学科/専攻名: 2 年 物質工学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 後期 週 (前期) (後期 2) 時間 (合計 30 時間)

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: (A) () ()

授業の概要	
創造性を高め、応用力・技術力を磨くことを目標に、2つの課題についての問題解決能力を磨く。すなわち、長期にわたる実用性の創造に挑戦する課題(A)、実験技術の向上に挑戦する課題(B)である。取り組むべき課題内容は、初回の授業で示される。図書館およびインターネット利用による調査活動を通じて知識を統合し、多面的にアプローチすることで問題解決にあたる。	
関連科目: 物質工学概論(1年)、物質化学実験(2年)、物質化学実験(3年)	
授業内容 (W)	達成目標
前期中間	
前期末	
後期中間	課題発表(課題A、課題B) (1) 発表された課題について、今までの学校での授業で教わった知識や図書館、インターネット等で集めた知識を整理できる。 問題解決のための資料収集(課題A、課題B) (2) 計画作成(課題B) (1) 計画書のプレゼンテーション(課題B) (1) 計画の修正(課題B) (1) 知識を総合的にまとめて、提案された課題に合わせて的確な計画書を完成できる。 実験(課題B) (1) 計画した実験を実際に行い、的確に操作できる。
後期末	計画作成(課題A) (2) パワーポイントを用いた実験計画のプレゼンテーションができる。 計画書のプレゼンテーション(課題A) (1) 計画の修正(課題A) (2) 実験(課題A) (2) 他の人の意見を参考に計画の修正ができる。必要な装置と部品、消耗品等をまとめられる。 コンテスト(課題A) (1) 実験工作を完成させて、課題コンテストに参加できる。
合計 15 週	
教科書	書名: 配布資料 著者: 発行所:
参考書	書名: 元素 111 の新知識 第2版 著者: 椋井 弘 発行所: 講談社
評価方法と基準	プレゼンテーション 30%、コンテスト結果 70% で総合的に評価し、50 点以上を合格とする。
オフィスアワー	随時

- B-9 -

(出典:平成 25 年度 シラバス, p. M-9, I-9, B-9)

創造実習テキスト（抜粋）

平成24年度創造実習（物質工学科2年） 担当 三上

講義日時：

毎週水曜5～6校時

集合場所：

総合情報センター 一般化学実験室 ※講義日程を参照のこと

講義概要：

事前調査と計画に基づく「七宝焼の製作」に取り組む。
七宝焼全般およびその周辺情報の調査、ならびに製作計画（手順・デザイン等）を自主的に実施し、調査計画の実施結果について、パワーポイントを用いたプレゼンテーション（発表）を行う。

評価基準：

計画発表	20%
成果発表	10%
七宝焼作品	70%

くわしく調査しているか・自分で考えているか・イメージとデザインは独創的か・努力のようすが認められるか・深くてわかりやすい発表か・調査・計画・製作までのつながりが認められるか 等を重視する。

連絡先：

0235-25-9119（教員室）
mikami-tak@tsuruoka-nct.ac.jp

発表について：

- 1 発表時間7分程度、質疑3分程度とする。
- 2 次の発表者は、前の席で待機すること。
- 3 発表資料は、USBメモリに入れて持参すること。

講義日程：

変更の場合は、その都度にて事前連絡する。

日 程	場 所	内 容
10/3	総合情報センター	事前調査・発表準備（1）
10/10	総合情報センター	事前調査・発表準備（2）
10/24	総合情報センター	計画発表（1）
10/31	総合情報センター	計画発表（2）
11/14	総合情報センター	計画発表（3）
11/21	総合情報センター	計画発表（4）
11/28	一般化学実験室	計画発表（5）
12/5	一般化学実験室	七宝焼製作（1）
12/19	一般化学実験室	七宝焼製作（2）

七宝焼き製作 其の一 <裏引き編>

1. 皿の上でふるい(茶こし)に裏引き釉薬を入れる。
2. 皿の上で裏引き釉薬を銅板の裏引き面(へこんでいる側)にふりかける。
3. 霧吹きを使って、ふりかけと霧吹きを交互に行う。銅板の色が隠れるまで繰り返す。

注意)霧吹きは、銅板の端を手で持って空中で行う。銅板の斜め上から横に吹きかけ、銅板の上に水滴を降らせるようにする。

4. 金網の上に裏引き面(へこんでいる側)が上になるように銅板をおく。
5. 銅板の乗った金網を持ってエアバスへ。
6. エアバス中のシャーレの上に銅板の乗った金網を乗せて 10 分間待つ。

注意)エアバスは一度に20名までしか使用できません(金網専用の置き場所が20箇所の為)

注意)10分経過して釉薬が生乾きであれば、さらに延長して待つ(完全に水分が飛んでいないと電気炉の中で釉薬が飛んでしまう為)。※待っている人がいるので、延長時間は最大で5分とします。

7. エアバスから金バサミで銅板が乗った金網を取り出し、電気炉へ。
8. 手袋をして 800℃の電気炉に入れ、1分間焼成する。

(出典：物質工学科資料)

工場実習実施証明書

実 習 証 明 書

平成24年 8 月 3 日

下記のとおり当事業所において、実習したことを証明します。

事業所名 **大日精化工業株式会社東京製造事業所**

責任者職氏名 **統括管理室 工務部**



学 校 名	鶴岡工業高等専門学校 機 械 工 学 科 第 4 学 年			
学 生 氏 名				
実習部課名	統括管理室工務部 設計課・工務課			
実習期間	平成24年 7月 24日～平成24年 8月 3日			
実習テーマ	工務部業務概要及、機械・電気保全業務			
出欠状況	出 勤	欠 勤	遅 刻	早 退
	8 日	0 日	0 日	0 日
実習先における評価	※ 項目別に該当する記号に○を付してください。			
	① 実習への自主的、計画的な取り組み姿勢について A+: 極めて優秀 (A) 十分に満足 B: 満足 C: 普通 D: やや不満 E: 不満			
	② 実習内容の成果及び結果に対する分析力、考察力、改善提案について A+: 極めて優秀 (A) 十分に満足 B: 満足 C: 普通 D: やや不満 E: 不満			
備 考	③ 論理的でわかりやすい報告 (または報告書・報告会内容) であるか A+: 極めて優秀 (A) 十分に満足 B: 満足 C: 普通 D: やや不満 E: 不満			
	お気付きのこと、又は、連絡事項等ございましたら御記入下さい。 実習を通じ将来が楽しみです。 今後のご活躍を祈念いたします。			

(出典：学生課資料)

資料5-2-③-4

工場実習評価

工場実習 (本科4年)	<p>1) 実習先の企業や機関の担当者による評価 専攻科インターンシップの評価方法と同様に評価する。</p> <p>2) 実習報告書による評価(800字程度) 担当教員が下記の観点から評価を行う。プレゼンテーションは行わなくてもよい。</p> <p>① 形式(目的、内容、まとめ)が整い、正しい日本語で書かれている</p> <p>② 論旨が明瞭で、実習内容や成果がよくわかる</p> <p>総合評価は、実習先評価点×0.4+実習報告書評価点×0.6として100点満点で評価し60点以上を合格とする。</p>
----------------	---

(出典：平成25年度 シラバス, p.22)

資料5-2-③-5

工場実習発表(抜粋)
(赤枠部分が該当箇所)

4年 機械工学科ゼミ(工場実習報告会)の内容と担当者の配置(2012)				
		教室:721教室 情セ:情報センター 合講:合同講義室		
		各研:機械工学科各研究室		
回	月日	曜日	場所	内容と担当者
11	12月21日	金	合講	発表会、10分、6人、本橋、小野寺、矢吹(準備、出欠)+5年生進路報告会5名
12	1月11日	金	合講	発表会、10分、10人、増山、佐々木、矢吹(準備、出欠)
13	1月18日	金	未定	TOEIC試験 矢吹(監督)
14	1月21日	月	教室	発表会、10分、9人、竹村、五十嵐、矢吹(準備、出欠)
15	1月25日	金	合講	発表会、10分、9人、白野、鈴木、矢吹(準備、出欠)
16	2月1日	金	合講	発表会、10分、9人、田中、今野、矢吹(準備、出欠、次週の説明)
17	2月7日	木	未定	卒研発表聴講 矢吹
18	2月8日	金	未定	卒研発表聴講 矢吹
19	2月15日	金	教室	卒研発表聴講レポートまとめ 矢吹

(出典：機械工学科資料)

工場実習参加学生（抜粋）

4M	応募企業名	日程	4E	応募企業名	日程
1	(有)ベスト青梅	8/20～8/24	1	キヤノン株式会社	8/20～8/24
2	地熱エンジニアリング(株)	8/6～8/10	2	花王株、オリエンタルモーター株鶴岡事業所	8/27-9/6、7/30-8/3
3	東燃ゼネラル石油(株)／東燃化学(同)	8/21～8/31	3	NTTファシリティーズ東北支社	8/27～8/31
4	(株)コニカミノルタビジネスソリューションズ	8/20～8/24	4	日立化成工業(株)	8/27～8/31
5	富士エンジニアリング(株)	8/20～8/24	5	富士通(株)	8/5～8/10
6	ミクロン精密(株)	7/30～8/3	6	山形東亜DKK(株)	8/6～8/10
7	(株)前川製作所	8/20～8/31	7	酒田共同火力発電(株)	8/6～8/10
8			8	(財)東北電気保安協会	8/6～8/10
9	(株)IHI	8/20～8/31	9	サントリープロダクツ(株)	8/27～8/31
10	アトマックス	8/27～9/1	10	中部電力(株)	8/25～8/30
11	地熱エンジニアリング(株)	8/6～8/10	11	長岡技術科学大学	7/30～8/3
12	大日精化工業(株)	7/24～8/3	12	通研電気工業(株)	8/2～8/8
13	(株)前川製作所	8/20～8/31	13	三菱ガス化学(株)	7/30～8/3
14	極東石油工業合同会社	7/30～8/3	14	鶴岡市役所	8/27～8/31
15	(株)電業社機械製作所	7/30～8/10	15	ミクロン精密(株)	7/30～8/3
16	JFEスチール(株)東日本製鉄所	7/30～8/10	16	(株)NIPPO東北支店	8/20～8/24
17	前田製管(株)	8/6～8/10	17	(株)スタンレー鶴岡製作所	8/20～8/24
18	(株)キッツ	7/30～8/3	18	ツインバード工業(株)	8/6～8/10
19	富士通(株)	8/5～8/10	19	ルネサス山形セミコンダクタ(株)	8/27～8/31
20			20		
21	(株)フジシール	8/20～8/24	21	ルネサス山形セミコンダクタ(株)	8/27～8/31
22	ルネサス山形セミコンダクタ(株)	8/27～8/31	22	タマポリ(株)	8/20～8/25
23	豊橋技術科学大学	8/27～8/31	23		
24	日鐵住金溶接工業(株)	7/30～8/10	24	長岡技術科学大学	8/6～8/10
25	(株)ニシカフ	8/1～8/7	25	山形クリエイティブ(株)	8/20～8/24
26	(株)ニシカフ	8/1～8/7	26	月島食品工業(株)	7/30～8/3
27	(株)ナチ東北精工	8/20～8/24	27	NTT東日本 山形	8/27～8/31
28	(株)ニシカフ	8/1～8/7	28		
29	(株)ニシカフ	8/1～8/7	29	日本信号(株)	8/20～8/31
30			30	酒田共同火力発電(株)	8/6～8/10
31	(株)クラレ新潟事業所	8/20～8/24	31	(株)NIPPO東北支店	8/20～8/24
32	(株)資生堂久喜工場	8/20～8/24	32	鶴岡市役所	8/20～8/24
33	富士ダイス(株)郡山製造所	8/20～8/24	33		
34	TDK庄内(株)	8/27～8/31	34	日本フェルト(株)	8/6～8/10
35	富士エンジニアリング(株)	8/20～8/24	35	(株)フジシール	8/20～8/24
36	ダイキン工業(株)	8/27～9/7	36	大阪ガス(株)	7/25～8/2
37			37		
38	(株)横河ブリッジホールディングス	8/20～8/31	38	(株)日立エレクトリックシステムズ	8/5～8/11
39	日東ベスト(株)	7/30～8/3	39	酒田市役所	8/6～8/9
40	TDK庄内株式会社	8/27～8/31	40	KDDIエンジニアリング株式会社	8/20～8/24
41	フロイント産業(株)	8/6～8/10	41	技研電子(株)	8/21～8/31
42	(株)IHIマリンユナイテッド横浜工場	8/20～8/31	42	パナソニック(株)山形工場	8/27～8/31
43	ハイメカ(株)	7/30～8/3	43	NTT東日本 山形	8/27～8/31
44	(株)キッツ	7/30～8/3	44	(株)スタンレー鶴岡製作所	8/20～8/24
	参加人数:40名			参加人数:39名	

(出典：学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

創造実習によるPBL型授業を通して創造性を育む教育が実践されている。各学科では工場実習に多くの学生が参加しており、実践的技術者の育成に活用されている。

観点 5-3-①： 教育課程の編成において、一般教育の充実や特別活動の実施等、豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。また、教育の目的に照らして、課外活動等において、豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。

(観点に係る状況)

本校では、基本教育目標に沿って一般教育を重視している(資料 5-3-①-1)。特別活動を1年生から3年生まで実施している(資料 5-3-①-2)。4学年のゼミ科目では工場見学を実施している(資料 5-3-①-3)。学校行事や5年次の共通選択科目においても、豊かな人間性を育成する教育を行っている(資料 5-3-①-4~5)。「学生生活の手引き」を学生に配布し、生活指導を行っている(資料 5-3-①-6)。ボランティア活動を推奨し、環境教育も実施している(資料 5-3-①-7~11)。課外活動への参加を推奨し、優れた活動に対しては規定に沿って表彰している(資料 5-3-①-12~15)。

資料 5-3-①-1

基本教育目標

校 訓

**自学自習
理魂工才**

基本教育目標

1. 豊かな人間性と広い視野を持ち、社会人としての倫理を身につける
2. あらゆる学習を通じて思考力を鍛え、創造性に富んだ技術者になる
3. 専門分野の基礎を良く理解し、実際の問題に応用できる能力を培う
4. 意思伝達及び相互理解のため、十分なコミュニケーション力を養う

養成する人材像

多様な価値観と広い視野を持ち、人間性と創造性に富み、基礎工学及び専門知識・技術を有機的に統合したものづくりやシステムづくりに強い実践的技術者。

学習・教育目標

1. 知識を統合し多面的に問題を解決する構想力を身につける。
2. 地球的視野と技術者倫理を身につける。
3. 数学、自然科学の基礎学力と実験・実習による実践力を身につける。
4. 工学の基礎学力と情報技術を身につける。
5. 一つの得意専門分野をもち、生産技術に関する幅広い対応能力を身につける。
6. 論理的表現力と英語力を身につける。
7. 計画的、継続的、客観的な問題解決能力を身につける。

(出典：平成 25 年度学生便覧 p. 1)

特別活動年間計画表

平成25年度 特別活動実施の目安

平成25年4月1日作成

回数	実施月日 (水曜日)	1年【7校時】	2年【7校時】	3年【7校時】
1	4月10日	生活ガイダンス(学生主事教)	新学年にあたり(拒)シラバスの説明	新学年にあたり(拒)シラバスの説明
2	4月17日	交通講話	交通講話	交通講話
3	4月24日	校内体育大会(5/22)選手選考(拒)	校内体育大会(5/22)選手選考(拒)	校内体育大会(5/22)選手選考(拒)
4	5月1日	(担任)	(担任)	キャリア及びCOOPガイダンス(各学科室員)
5	5月8日	学生会総会	学生会総会	学生会総会
6	5月15日	キャリアガイダンス(各学科長)	キャリアガイダンス(各学科室員)	(担任)
7	5月22日	校内体育大会	校内体育大会	校内体育大会
8	5月29日	前期中間試験(6/14~)に向けて	前期中間試験(6/14~)に向けて	前期中間試験(6/14~)に向けて
9	6月5日	スキルアップ講座(教務主事教-各学科単位)	特別講演会(知財)(仙台商専-缶々木CD)	JABEEガイダンス(FD委員会)
10	6月12日	合同観劇	合同観劇	合同観劇
11	6月19日	前期中間試験	前期中間試験	前期中間試験
12	6月26日	前期中間試験成績指導	前期中間試験成績指導	前期中間試験成績指導
13	7月3日	選手壮行式	選手壮行式	選手壮行式
14	7月10日	「高専生活の過ごし方」(各学科専攻科生)	「高専生活の過ごし方」(各学科専攻科生)	ビジネス講座(加藤学校長):全学科
15	7月17日	性に関する講演会	企業訪問研修ガイダンス(COOP教育推進室)	企業訪問研修ガイダンス(COOP教育推進室)
16	7月24日	生活指導講演会	生活指導講演会	生活指導講演会
17	7月26日	夏季休業前指導	夏季休業前指導	夏季休業前指導
18	9月4日	防災訓練	防災訓練	防災訓練
19	9月11日	前期末試験に向けて	前期末試験に向けて	前期末試験に向けて
20	9月25日	前期末試験	前期末試験	前期末試験
21	10月2日	後期授業にあたり	後期授業にあたり	後期授業にあたり
22	10月9日	前期末試験成績指導・高専祭準備	前期末試験成績指導・高専祭準備	前期末試験成績指導・高専祭準備
23	10月16日	(担任)	サイエンス講話	インターンシップ講演会
24	10月23日	未来予想図講座(本校OB企業技術者)	未来予想図講座(本校OB企業技術者)	COOP教育報告会(COOP教育推進室)
25	11月6日	(担任)	サイエンス講話	(担任)
26	11月13日	後期中間に向けて	後期中間に向けて	後期中間に向けて
27	11月20日	ビジネス講座(加藤学校長):ME学科	サイエンス講話	(担任)
28	11月27日	後期中間試験	後期中間試験	後期中間試験
29	12月4日	ビジネス講座(加藤学校長):IB学科	サイエンス講話	特別講演「企業が求める人材」(地元企業経営者)
30	12月11日	将来イメージ講座(本校OB)	ビジネス講座(加藤学校長):ME学科	(担任)
31	12月18日	冬季休業に向けて	冬季休業に向けて	海外工場見学報告会(教務)
32	1月8日	(担任)	ビジネス講座(加藤学校長):IB学科	(担任)
33	1月15日	人間力講座(未定)	キャリアガイダンス①(職業興味検査VIRT:実施)	COOP教育ガイダンス(COOP教育推進室)
34	1月22日	(担任)	キャリアガイダンス②(職業興味検査VIRT:結果)	(担任)
35	1月29日	「高専生のキャリアプラン」(高専講師・三好教授)	キャリアガイダンス③(職業興味検査VIRT:分析)	人間力講座(未定)
36	2月5日	学年末試験(2/20-26)に向けて	学年末試験(2/20-26)に向けて	学年末試験(2/20-26)に向けて
37	2月12日	1学年を終わるにあたり	2学年を終わるにあたり	3学年を終わるにあたり
38	2月19日	(担任)	(担任)	(担任)
39	2月26日	学年末試験	学年末試験	学年末試験
学校行事・試験他		12回	14回	13回
キャリア教育回数		9回	10回	7回
担任指導回数		18回	15回	19回

(出典：学生課資料)

工場見学に関する取扱い

<p>工場見学および卒業研究聴講に関する取扱い (本科ゼミ科目)</p>	<p>1) 工場見学報告書の提出 (800 字程度) 工場見学報告書の評価は、担当教員が以下の観点から 100 点満点で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 正しい日本語で書かれている ② 論旨が明瞭で、筆者の考えや伝えたいことがよくわかる ③ 報告内容の水準 <p>2) 卒研発表会の聴講報告書の提出 (800 字程度) 発表会の中で、興味を持った発表を取り上げて、興味を持った理由、理解できた点、疑問点、質問点あるいは提案、意見などについて記述する。評価は、工場見学報告書と同様の観点から担当教員が 100 点満点で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 正しい日本語で書かれている ② 論旨が明瞭で、筆者の考えや伝えたいことがよくわかる ③ 報告内容の水準 (大学生レベル) <p>各ゼミ科目の総合評価は、シラバスに従う。</p>
--	---

(出典：平成 25 年度シラバス， p. 22)

資料5-3-①-4

学校行事年間計画表

平成25年度 学校行事の出席簿上の取り扱いについて

平成25年4月1日作成

月 日(曜日)	行 事 名	取扱い上の科目名	学 年 別 時 間 数					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
4月8日(月)	始業行事	学校行事	3	3	3	3	3	1~3校時授業
	1年標準テスト	"	3					国、数、英各1h
4月17日(水)	交通講話	"				1	1	7校時、1~3年は特別活動
4月中予定	5年生進路指導	"					2	卒業研究の時間
5月 8日(水)	学生会定期総会	"				1	1	7校時、1~3年は特別活動
5月 9日(木)	新入生校外研修	"	6					1日
5月22日(水)	校内体育大会	"	6	6	6	6	6	1日
6月 5日(水)	4年生進路指導	学校行事				2		7・8校時
6月12日(水)	合同観劇	"	3	3	3			1~3校時授業、4校時~
7月 3日(水)	選手壮行式	"				1	1	7校時、1~3年は特別活動
7月17日(水)	性に関する講演会(1年)	"	1					7校時、特別活動
7月24日(水)	生活指導講演会	"						7校時、1~3年は特別活動
7月26日(金)	特別清掃	"	1	1	1	1	1	6校時
9月 4日(水)	防災訓練	"				1	1	7校時、1~3年は特別活動
9月20日(金) ~27日(金)	前期末試験	"	15	15	15	15	15	3h×5日
9月27日(金)	終業行事	"	1	1	1	1	1	3校時
10月25日(金)	鶴峰祭準備半日(午前)	"	4	4	4	4	4	
10月26日(土)	鶴峰祭	"	6	6	6	6	6	
10月27日(日)	鶴峰祭	"	6	6	6	6	6	
11月 5日(火) ~8日(金)	4年工場見学	(ゼミ科目)				(24)		6h×4日
12月 4日(木)	4年、専1年企業説明会	学校行事				2		5・6校時
12月中予定	4年生進路指導	"				2		7・8校時
1月14日(火)	3年学習到達度試験	"			4			数学、物理 各2h
1月中予定	4年TOEIC試験	"				2		
2月 4日(火) ~7日(金)	4年卒研発表会聴講	(ゼミ科目)				(12)		6h×2日
	5年卒研発表会	(卒業研究)					(12)	6h×2日
2月13日(木) ~19日(水)	卒業試験	学校行事					12	3h×4日
2月20日(木) ~26日(水)	学年末試験	"	15	15	15	15		3h×5日
2月28日(木)	終業行事	"	1	1	1	1		2校時
学 校 行 事 時 数 の 合 計			71	61	65	70	60	
注 意	○ 1~3年工場見学(各科の予定による):1日行程の場合は6時間、半日行程の場合は3時間とする。ただし、授業として取り扱った場合は、学校行事としない。 ○ 大学による出前授業:振り替えた授業科目の時数とする。 ○ インターンシップ講演会:振り替えた授業科目または特別活動(学科の判断)の時数とする。							

(出典：学生課資料)

豊かな人間性を育成する共通選択科目

教科目名: 医療福祉機器工学 (Medical and Welfare Engineering)

担当教員: 六戸 道明

学年・学科/専攻名: 5 年 全学科

単位数・授業時間: 共通選択 1 単位 前期 週 (前期 2) (後期) 時間 (合計 30 時間)

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: (B) (D) ()

授業の概要	
医療・福祉といった学際的境界領域における工学の役割と工学技術の応用展開について学ぶ。 とくに、医療や福祉をとりまく環境や法規制などの特殊性、特異性を理解するとともに、工学技術を応用し社会貢献を図るための“ものづくり”の創造力涵養を目指す。	
関連科目: 音と福祉工学、技術者倫理	
授業内容	達成目標
前期 工学からみた学際領域 (医療) へのアプローチ (1) 医療の現状と課題・法規制 (1) 生体のイメージング (可視化の技術) (1) 生体のセンシング (計測技術) (1) 生体のモニタリング (監視技術) (1) 救急救命とバイタルセンシング (1) ストレスとホルモン (1) 前期中間試験 (1)	1) 機器の使用対象が「人間」であるがゆえの開発設計時の制約を理解する。 2) 工学技術の応用例を知り、工学を修得しておくことの大切さを理解する。 3) 医用計測と工学計測の違いを理解できる。
前期末 介護と福祉業界の現状と課題 (1) ユニバーサルデザイン (1) バリアフリーの概念と人間工学 (1) 対極的なアプローチ (自立と介護) (1) ヒューマンファクター (1) 新しい福祉機器設計の提案 (1) 充実した福祉社会の構築のために (1) 前期末試験 (0)	1) 多岐に渡る福祉のかたちを知り、「何のための“福祉”なのか」の解が導き出せる。 2) 高齢者、障がい者に対する工学的支援のためのアプローチを学ぶ。 3) 工学技術を医療・福祉分野へ生かす創造的視点を持ち、提案できる。
後期中間	
後期末	
合計 15 週	
教科書	書名: なし (適宜, 資料を配布) 著者: 発行所:
参考書	書名: なし (適宜, 講義内で紹介) 著者: 発行所:
評価方法と基準	前期末試験 70 %, 授業や課題への取り組み状況 30% を元に達成度を総合評価する。 総合評価 60 点以上を合格とする。
オフィスアワー	講義実施日の 16:00~17:00

教科目名: 地球環境科学 (Earth Eco-Science)
 担当教員: 小 谷 卓
 学年・学科/専攻名: 5 年 全学科
 単位数・授業時間: 共通選択 1 単位 後期 週 (前期) (後期 2) 時間 (合計 30 時間)
 単位種別: 履修単位 鶴岡高专学習・教育目標: (B) (D) ()

授業の概要	
かけがいのない地球環境 (大気圏、水圏、生物圏) の現状認識と環境問題の捉え方および環境汚染の原因物質などについて学習し、何をどうすればよいのかを持続可能な循環型社会構築の観点から考えさせる。 地球規模の環境問題、国内の環境問題および廃棄物とリサイクルなどについて学習する。	
関連科目: 環境とエネルギー、環境生態学	
授業内容 (W)	達成目標
前期中間	
前期末	
後期中間	1. 地球環境の現状から何が見えてくるかを理解できる。 2. 地球の成り立ちや地球の構成元素 (大気・水圏・土壌) 等について理解し地球環境の現状理解できる 3. 地球規模の環境問題としてのオゾン層の破壊、地球の温暖化、酸性雨 (雪) について、これらの問題がどのようにして引き起こされたのか、原因物質が何かを理解できる。
後期末	4. 国内の環境問題 (公害問題) の歴史とその問題点理解でき、大気汚染、水質汚染、土壌汚染、廃棄物・ダイオキシン問題等の現状が理解できる。 5. 持続可能な循環型社会の構築をめざして、21世紀の我々のライフスタイルはいかにあるべきか理解できる。
合計 15 週	
教科書	書名: 地球のすがたと環境 著者: 多賀光彦・那須淑子・菅正彦 共著 発行所: 三共出版
参考書	書名: 著者: 発行所:
評価方法と基準	期末試験 70%、レポート 30%、をもって、総合的に評価して、60点以上を合格とする。 試験レベルは達成目標に則した内容とする。レポートは環境問題に対する意識・認識度を問う内容とする。
オフィスアワー	授業実施日の 16:00 ~ 17:30

教科目名: 音と福祉工学 (Applied Acoustics for Welfare Engineering)
 担当教員: 柳 本 憲 作
 学年・学科/専攻名: 5 年 全学科
 単位数・授業時間: 共通選択 1 単位 後期 週 (前期) (後期 2) 時間 (合計 30 時間)
 単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: (B) (D) ()

授業の概要
 音と福祉との関わり方を医療、福祉機器、音響工学、音響心理、音場創成技術、環境などの多方面にわたる分野から考察をしていく。

関連科目: 医療福祉機器工学、音響工学

授業内容		(W)	達成目標
前期中間			
前期末			
後期中間	1. 音の福祉への関わり方 2. 医用への音響利用 3. 音の知覚のメカニズム 4. 音の知覚の定性的、定量化 5. 聴覚診断と聴覚補償 6. 中間試験	(1) (1) (1) (2) (3) (1)	(1) 音と福祉の関わり方を理解することができる。 (2) 人の音の受容と知覚のメカニズムについて理解することができる。 (3) 聴覚障害者の診断方法とそれに対する聴覚補償を理解することができる。
後期末	7. 心理音響技術による音の評価 8. 騒音と心理 9. 発話障害 10. 喉頭がんによる発話障害と補償機器 11. 音の風景と癒しの音環境 卒業試験	(2) (1) (1) (1) (1)	(4) 耳で受容された音が脳で理解されるメカニズムについて理解することができる。 (5) 言語発達期における聴覚障害や喉頭がんによる喉頭の摘出による発話障害とその補償機器について理解することができる。 (6) 人の心理的癒しと音場の創成について理解することができる。
合計 15 週			
教科書	書名: 授業プリントを配布	著者:	発行所:
参考書	書名:	著者:	発行所:
評価方法と基準	毎回の授業で、小テストを行う。中間試験 40%、期末試験 40%、小テストとレポート 20% で 100 点満点で評価し、60 点以上で合格とする。		
オフィスアワー	授業日の 16:00~17:00		

学生生活の手引（学生用）

平成25年4月

学生生活の手引き

- 学生用 -

この小冊子は、学生諸君が心身共に健全な学生生活を送るうえで銘記し守るべき心得を記したものです。熟読して理解し、常に目標を持って心豊かで充実した学園生活を過ごすようにして下さい。

目 次

I. 生活指導の基本方針	1
II. 生活指導	1
III. 交通安全指導	5
IV. 違反行為をおこした学生に対する措置	8

I. 生活指導の基本方針

【基本方針】

三つの能力を兼備する創造的、実践的技術者の育成をめざす。

- ・社会の一構成員たる職業技術者としての倫理的判断能力
- ・いかなる問題に対しても敢然と取り組む行動能力
- ・自己の技術的行動を合理的に遂行するための専門知識の獲得能力

*倫理的判断能力 —— 規範、規律、遵法、責任、協調の精神の涵養

*行動能力 —— 自主、自発、決断、忍耐、精進の精神の涵養

*知識獲得能力 —— 学習意欲の高揚 目的意識の確立

II. 生活指導

【指導目標】

- (1) 基本的生活習慣の育成 (2) 規範意識の高揚 (3) 遵法精神の育成および実践

【遵守事項】

1. 服装・身だしなみについて → 「制服(シャツ・ブラウス)等の着用について」

- ・通学時には、1～3年生は制服着用とし、4～5年生は学生らしい服装とする。
- ・夏服装用時以外のシャツ・ブラウスの裾出しなど、だらしない着用をしない。
- ・サンダル・下駄・草履での通学は禁止する。履き物は、服装とのバランスもあるが、非常時を考慮し、動きやすい靴で通学する。
- ・染髪・ピアス・化粧・マニキュアなどしない。

※留意点

- ・TPO(時・場所・状況)をわきまえた服装を心掛ける。学校は学習活動の場である。学習するのに適した服装で学ぶこと。派手な色や柄のものは着用しない。

2. 飲酒・喫煙について

- ・未成年者の飲酒・喫煙は、いかなる場所でも禁止する<法律>。
- ・成人に達した学生に対しては、健康のため、また下級生への悪影響を防ぐために、通学途中および校内・寮内においての飲酒・喫煙は禁止する。
家庭においては、保護者の指導のもと、飲酒・喫煙を行わない。家庭外、下宿・アパートなどにおいて未成年の同宿者に悪影響を与える場合は禁止する。

※留意点

- ・国の法律によるほか、本校の教育方針に基づいて指導する。
- ・喫煙が習慣化した場合、これを元に戻すことは非常に困難であることが多い。
- ・自律、自制は実践的技術者に必要不可欠であり、したがって定められた規律を守る遵法精神の育成は、本校の教育上、欠くことは許されない。

3. アルバイトについて

- ・アルバイトは許可制とする。→ 「アルバイト許可の条件」
- ・余暇の善用を原則とする。
- ・4・5年生における家庭教師・塾講師などの一部職種を除いては、勉学上の時間的余裕を損なわないように長期休業中に行う。但し、経済状況等の家庭事情等により、保護者から要請書が提出されたものに関しては別途検討する。
- ・学生にふさわしくない職種(風俗営業、飲酒宴会が主となる飲食業、車両運転を伴う業務、および、深夜にわたる職種や宿泊を伴うもの)は禁止する。

4. 下宿・アパートについて

- ・アパート住まいは、自炊に伴う弊害が起こりやすく、生活のリズムにも影響しがちである。規律のある正しい生活習慣を習得して生活をする。
- ・下宿の場合には、下宿主や同宿者と生活が一緒になることが多い。他人に迷惑をかける心がかけて生活する。
- ・他人の迷惑を考えずに自分本位の行動をすることは、自律・協調の精神に反するものであるから、そのようなことのないようにする。

制服(シャツ・ブラウス)等の着用について

落ち着いた学習環境を醸成するため、登下校時及び学内での学生の制服着用マナー及びベスト・カーディガン着用について、下記のような方針で指導する。

1. 制服の長袖シャツ・長袖ブラウス 及び 夏服(半袖シャツ・半袖ブラウス) 着用時のマナー

(1) ネクタイの着用について

①春季(4月1日～5月31日) 及び 秋季・冬季(10月1日～3月31日)

着用時は、襟元のボタンを留め、ネクタイをしっかり締める。ネクタイの緩みは、指一本が入る隙間程度以下とする。

②夏季(6月1日～9月30日)着用時は、ネクタイを着用しない。

この時、襟元のボタンは、すべて留めるか、第一ボタンを外す。第2ボタンより下のボタンは、きちんと留める。

(2) シャツ・ブラウスの裾出しについて

夏季(6月1日～9月30日)は認めるが、それ以外は認めない。

2. ベスト及びカーディガンの着用について

(1) ベスト及びカーディガンは、ブレザーの下に着用する場合のみ認める。

カーディガンを上着として着用することは認めない。ブラウスを着用して寒い場合は、ブラウスの下に別のシャツを着るか、ベストまたはカーディガンを着て、その上にブレザーを着用する。

(2) 夏季(6月1日～9月30日)のベスト着用は、女子学生のみ認める。

(3) ベスト及びカーディガンの色は、白、灰色、黒、紺色、ベージュで、ワンポイントまで許容する。＜派手なものは認めない。＞

3. その他

(1) 制服を正装・礼服として着る場合：長袖シャツ・長袖ブラウス(または、半袖シャツ・半袖ブラウス)は、ネクタイをしっかり締めて着用する。

(2) 工場見学や観劇のように集団で行動する場合は、TPOに合わせ統一した服装とする。

(3) 学生個人の健康状態、気温等によって、柔軟に対応する。

(4) 制服以外の衣服を着用するときは、本校学生の体面を失わないように留意する。